

Doshisha University

総合情報センター報 | 2003.5 No.25



CONTENTS

■ 日・EUフレンドシップウィーク at 同志社大学 2003	1
■ 同志社大学EU資料センターについて	2
■ 欧文データベースOCLC FirstSearch いよいよ始動!!	3
■ 生江文庫目録が完成しました	4
■ 電子化資料を活用しよう!	6
■ 総合情報センター主催の講習会について	7
■ お知らせ&マナーを守って利用しましょう	8

日・EUフレンドシップウィーク at 同志社大学 2003



5月31日(土)に、日・EUフレンドシップウィークとして、公開講演会、シンポジウムを開催します。本年度のテーマは「欧州憲法とEUの将来」です。本年は、総合情報センターと駐日欧州委員会代表部、同志社大学ワールドワイドビジネス研究センター(RCWOB)が主催します。

公開講演会では、駐日欧州委員会代表部大使を講師にお招きします。昨年度は「欧州統合の歩み—過去・現在・未来—」として、駐日欧州委員会代表部公使による講演があり、一般市民を交えての熱心な質疑応答もありました。本年はEU拡大に注目される年でもありますので、このあたりの興味深いお話が期待できそうです。

講演会のあとはシンポジウムを開催します。これはRCWOBのEUに関する研究プロジェクトによる公開セミナーです。東京大学社会科学研究所の中村民雄助教授をゲストスピーカーに、次に他の研究メンバー3名によるショートレクチャーがあります。

当日はどなたでもご参加いただけます。

日・EUフレンドシップウィーク information

- 期 日：5月31日(土)
- 会 場：同志社大学 神学館礼拝堂
- テーマ：「欧州憲法とEUの将来」
- 公開講演会 13:00-14:30
駐日欧州委員会代表部 大使
ベルンハルド・ツェプター 氏 (通訳付)
- シンポジウム 15:00-17:30
基調講演：中村 民雄 (東京大学助教授)
- セミナー：
 - ◆ 司会：安江 則子 (立命館大学教授)
 - ◆ 挨拶：梅津 實 (同志社大学教授)
 - 福田 耕治 (早稲田大学教授) 欧州委員会
 - 児玉 昌巳 (久留米大学教授) 欧州議会
 - 鷲江 義勝 (同志社大学助教授) 同盟理事会

このほか、5月26日(月)～31日(土)は、EU資料センターにて、資料の展示も行います。EUに関するさまざまなパンフレットなども配布いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

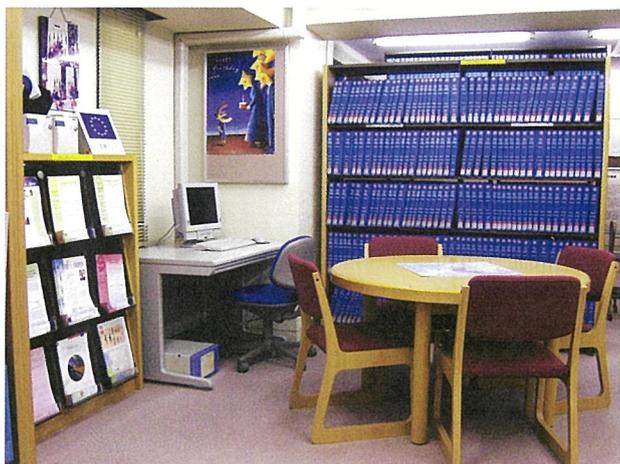
同志社大学 EU資料センターについて

<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/eu/index.html>

同志社大学EU資料センターをご存知ですか？

今出川図書館玄関ホール東側、受付カウンター脇の階段を下りると、その閲覧室があります。

この閲覧室は、同志社大学学生・教職員に限らず、誰でも自由に利用することができます。



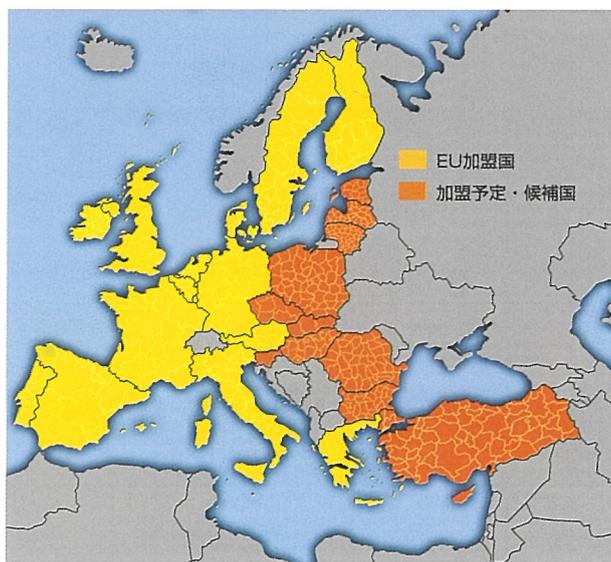
同志社大学EU資料センターは、欧州連合（European Union=EU）の行政機関である欧州委員会（Europe Commission）によって世界中の大学に設置されたEDC（European Documentation Centre）の一つです。京都には一館で、関西における数少ないEU研究の拠点です。EDCは現在、世界各地に600近く存在しますが、うち日本には19のEDCがあり、そのいずれもがヨーロッパ統合に関する研究、調査の促進のために、広く一般の方にも情報を提供することを目的としています。

本センターでは、主にルクセンブルグの出版局より送付される英文のEU公式資料や出版物を始め、“Bulletin quotidien Europe”といった関連資料も合わせて提供しています。また、EUの公式サイト“ヨーロッパサーバー”やEUの各種公式記録にアクセスできる“EUR-Lex”、EU法総合データベース“Celex”等も検索していただくことができます。



詳しい使い方・利用時間等は、受付カウンターで配布している『同志社大学EU資料センター』をご覧ください。

EUは、ベルギー、デンマーク、ドイツ、ギリシャ、スペイン、フランス、アイルランド、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランド、スウェーデン、イギリスの15カ国からなる連合体です。第二次世界大戦後、ヨーロッパの悲惨な戦争の歴史に終止符を打つべく誕生した6カ国からなる欧州石炭鉄鋼共同体（European Coal and Steel Community=ECSC）をその起源とし、経済や原子力分野での共同体の設立と、その3共同体を統合した欧州諸共同体（European Communities = EC）の形成を経て、1993年に発足しました。



©Audiovisual Library European Commission

EUは、ヨーロッパの永久平和という理想の実現に向けて、粘り強く数々の困難を克服し、拡大を続けており、2004年にはチェコ、エストニア、キプロス、ラトヴィア、リトアニア、ハンガリー、マルタ、ポーランド、スロヴェニア、スロヴァキアの10カ国を加え、25カ国となります。

ユーラシア大陸の両端に位置する日本とEUですが、EUについて知ることは、私たちに国を超えた存在の重要性とその影響力を示し、世界の平和と安定に何が必要かを考える糸口を与えてくれます。興味のある方は、ぜひ一度足を運んでみてください。

欧文データベース OCLC FirstSearch いよいよ始動!!

<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/database/index.html>

2003年4月1日より、世界最大規模の図書館サービス提供機関であるOCLCが提供するオンライン文献検索システム **OCLC FirstSearch** が、本学ホームページ「データベース検索」画面より利用できるようになりました。

OCLC FirstSearch とは？

OCLC FirstSearch には、主題分野や情報の種類別に約55の欧文データベースが収録されており、文献情報をはじめとするさまざまな情報を得ることができます。利用できるデータベースと収録内容の主な例をいくつか紹介します。

■ WorldCat ...

世界最大の書誌データベース。北米を中心とするOCLCメンバー館の所蔵する図書、Webリソースその他世界中の資料の書誌・所蔵情報を収録

■ ArticleFirst ...

OCLC製作による、ジャーナルの目次情報および記事情報

■ BooksInPrint ...

入手可能な図書、絶版書、新刊図書情報、オーディオ、ビデオなどのカタログ

■ GPO (GPO Monthly Catalog) ...

1976年以降の米国政府刊行物の書誌データを収録



検索を実行すると、タイトルや著者名といった書誌事項の他、所蔵館一覧が表示されますので、OCLC加盟機関の資料所蔵状況が簡単に確認できます。



なお、収録情報は欧文ですが、検索画面やデータベース内容の参照などは日本語で表示されます。ただし、日本語表示機能はInternet Explorerのみ対応です。ブラウザ起動時にはInternet Explorerを選択して下さい。

検索と資料の入手について

ここではWorldCatデータベースを例に検索画面について説明します。WorldCatデータベースでは世界中の資料の書誌・所蔵情報を検索することができますが、検索項目として「資料のタイトル」や「著者名」「主題」「出版年」といった一般的な項目に加えて、資料形態（図書、逐刊、電子資料、インターネットリソースなど）や内容種別（学位論文・博士論文など）まで詳細に指定することができます。多様化する資料状況に対応した機能といえるでしょう。

利用したい資料があれば、次に同志社大学の所蔵を確認して下さい。左フレーム下方のリンクから、DOORS（同志社大学OPAC）へジャンプできます。同様に、NACSIS-Webcat（NIIの総合目録データベース）、国立国会図書館OPACへのリンクも設けていますので、DOORS でヒットしなかった場合はこちらから国内他館の所蔵状況を確認することができます。

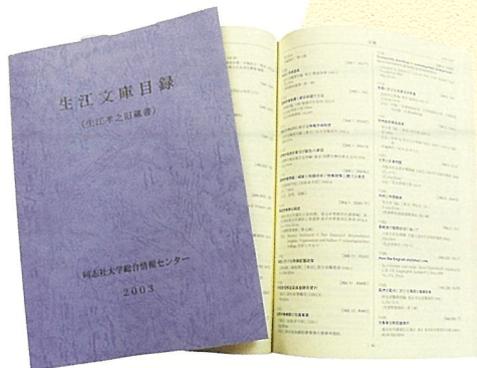
希望の資料が同志社大学に所蔵されていない場合には、相互利用サービスにより複写の取り寄せや現物借用を所蔵館へ依頼することができますので、レファレンスカウンターへご相談下さい。

"All screen captures property of OCLC and/or its third-party licensors. Used with permission. FirstSearch is a registered trademark of OCLC Online Computer Library Center, Inc."

なまえ 生江文庫目録が完成しました

所蔵：両校地図書館参考室

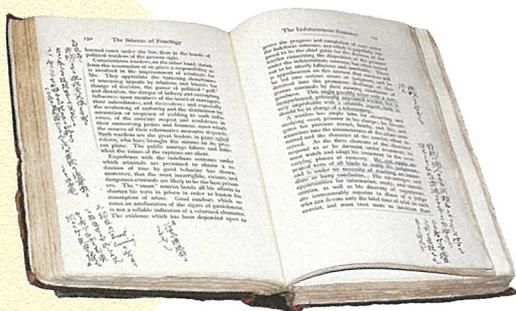
請求記号：O28.369 D9477



1. 生江文庫の性格と由来

今出川図書館には生江文庫と呼ばれるコレクションがあります。これは戦前の社会事業文献を中心とする「知る人ぞ知る」コレクションです。この文庫は“日本の社会事業の父”と呼ばれ、日本女子大学教授でもあった生江孝之氏から同志社大学に蔵書約2,700冊（図書2,424タイトル、逐次刊行物268タイトル）を寄贈されたものです。

これら資料の特徴としては、社会事業関係の資料を中心に、キリスト教、政治経済、統計、婦人問題、禁酒禁煙、農村問題、貧困問題など多方面にわたりますが、なかでも特筆すべきは、教会や、内務省の調査資料、統計文献の小冊子が多数ある点です。これらは全国的にも本学しか所蔵の無いものもあり、社会事業の先駆者であり、実践者であった生江孝之でなければ収集できなかったものといえます。また、資料には入手年月日、地名の他、多数の書き込みが見られ、生江自身の活動の足跡もうかがい知ることができます。



生江の書き込みのある資料
The science of penology 【今出川貴重室 326.4 B4】

同志社大学図書台帳には昭和20年4月から受入れの記載がありますが、爾来50年を超える年月を経て、昨年にはデータ入力の完了、そしてこのたび、『生江文庫目録』を発行する運びとなったのです。本目録は同志社大学目録規則に基づく分類順で配列し、巻末には書名と著者名の索引を付けました。一番ヶ瀬康子氏（長崎純心大学教授・日本女子大学名誉教授）、室田保夫氏（関西学院大学教授）による解説のほか、生江孝之年譜を収録しています。

2. 生江孝之の生涯とその業績

慶応3（1867）年仙台に生まれ、キリスト教の伝道者を志して上京し、青山学院の前身である東京英和学校に学びました。北海道で伝道にあたった後、再び上京して青山学院神学部に入學、山室軍平らとの出会いもあって社会事業への関心を強めます。

明治33（1900）年に渡米、社会事業を学び、さらにボストン大学で社会学、神学を修めました。欧米の社会事業を視察した後、内務省嘱託となり、日本における社会事業の成立、進展に貢献しました。単に学問、理論にとどまらず、とくに児童保護、麻薬中毒者の救護、監獄の改良などに尽力しました。「社会事業の父」と呼ばれる所以です。

また、日本女子大学ほか多数の大学で教鞭を執り、多くの社会事業家の育成にも力を注ぎました。前述の一番ヶ瀬康子氏は最後の教え子にあたります。

代表的な著書としては、『社会事業綱要』『日本基督教社会事業史』等があります。

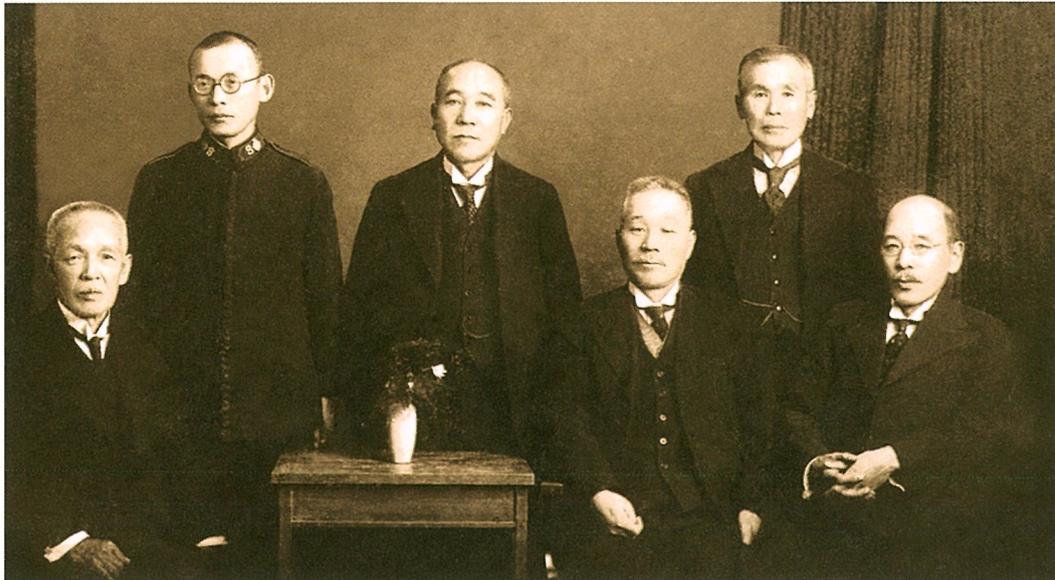
3. 生江孝之と同志社

ではどのような縁でその貴重な蔵書が同志社に寄贈されたのでしょうか。生江は日本女子大学教授であったわけですから、本来ならば日本女子大学図書館に寄贈があっても不思議ではありません。

この背景には、社会事業界・社会福祉界における同志社の深い水脈が横たわっている事実があります。

明治20年代、北海道の集治監*では、重罪人を教化するためにキリスト者が教諭師として採用されていました。最初に採用された原 胤昭が、多くの囚人の教化に成果を上げると、キリスト教の教諭師の採用が本格的に始まりました。次に留岡幸助（1864-1934 同志社英学校別科神学課卒業。家庭学校創立。）が招聘され、その後留岡の尽力で、同志社

*明治時代 旧刑法監獄則による内務省直轄の刑務所



後列左から山室軍平、留岡幸助、有馬四郎助

前列左から原胤昭、村松浅四郎、生江孝之

で神学を学んだ人々が次々と招聘されました。大塚 素、水崎基一、牧野虎次（1871-1964 同志社神学校卒業。第11代同志社総長。）のほかに有馬四郎助らを加え「北海道バンド（樺戸グループ）」と称しました。明治27（1894）年、生江孝之は北海道の樺戸教会へ赴任し、このグループと出会うのです。

また、青山学院神学部生だった明治29（1896）年には、救世軍の発会式で山室軍平（1872-1940 同志社普通学校入学。救世軍による廃娼運動を展開）と村松浅四郎に会い、その事業創立の動機と苦心には深く感激したと述懐しています。

留岡は犯罪の根源を絶つための感化事業、山室は救世軍（貧困廃絶）に力を尽くしました。こうした社会事業の先覚者たちと志を同じくする生江孝之との友情が生涯にわたり育まれていったのです。

このような背景があって、後に社会事業関係の資料を同志社へ寄贈することとなったのではないかと推測されます。この件については、室田氏が解説で詳細に述べています。

4. さまざまな助言と協力

本編はデータがありますが、解説については文学部の黒木保博、岡本民夫、井岡 勉各先生に仲介の労をとっていただき、一番ヶ瀬康子氏、室田保夫氏にお願いすることができました。

問題は、口絵写真でした。『生江孝之君古稀記念』にある

生江孝之とその友人たちの写真は、生江と同志社の関係を語る上でも、是非使用したいと考えましたが、原版の所在すらわかりませんでした。著作権台帳、インターネットなどで、それぞれのご遺族の連絡先を調べていく中で、多くの方々から情報の提供がありました。原胤昭氏のご遺族が写真の原版を所蔵されていることも判明し、使用のための貸出を快諾していただきました。生江孝之の孫の生江明氏（日本福祉大学）には、年譜を作成するにあたって、戸籍に遡って調査をしていただくと共に、生江夫妻の貴重な写真も提供していただきました。

このように、有形無形の多くの援助によって『生江文庫目録』を完成することができたのです。

5. 生江文庫の利用について

この『生江文庫目録』発行により生江文庫の全容を示すことで、蔵書を託された同志社大学としての責任の一つを果たすことができたと考えています。そして、この生江文庫が今後の社会事業、社会福祉の研究に少しでも役立つことを願っています。

生江文庫は今出川図書館の貴重室で保管されています。利用を希望する場合は、今出川図書館のメインカウンターで所定の手続きを取ってください。

※『生江文庫目録』は事業課にて販売しています。

電子化資料を活用しよう！

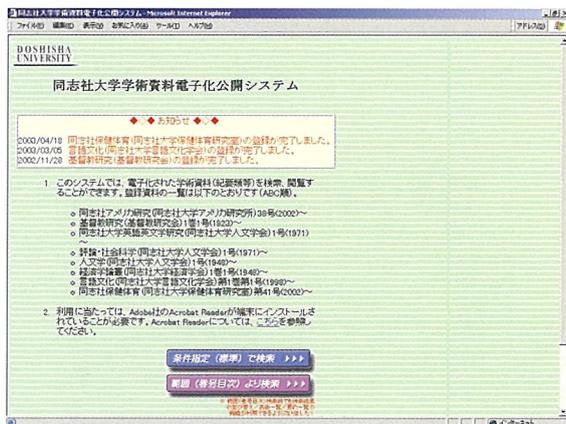
<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/digital/index.html>

同志社大学学術資料電子化公開システム

<http://duels.doshisha.ac.jp:88/>

電子化された学術資料（紀要類等）を検索、PDF形式で閲覧することができます(利用に当たっては、Adobe社のAcrobat Readerが必要です)。登録資料の一覧は以下のとおりです（ABC順・2003年4月1日現在）。

雑誌名	収録範囲
同志社アメリカ研究 (同志社大学アメリカ研究所)	38号～ (2002)
基督教研究 (基督教研究会)	1巻1号～ (1923)
同志社大学英語英文学研究 (同志社大学人文学会)	1号～ (1971)
評論・社会科学 (同志社大学人文学会)	1号～ (1971)
人文学 (同志社大学人文学会)	1号～ (1948)
経済学論叢 (同志社大学経済学会)	1巻1号～ (1948)
言語文化 (同志社大学言語文化学会)	第1巻第1号～ (1998)

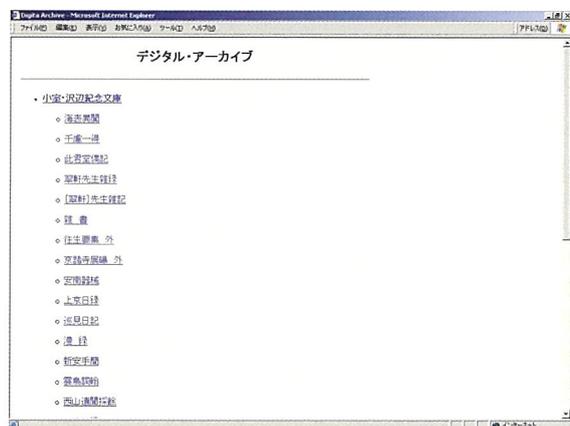


貴重資料・デジタルアーカイブ

http://duels.doshisha.ac.jp:88/denshika/da_idx.html

本学が所蔵する史資料の中から選定した自筆稿本や自筆写本を中心に同志社に縁の深い山本覚馬に関連した文書や書簡、江戸時代の後期に記された漂流記などの日本史関係史料を公開しています。現在公開している資料は以下のとおりです(2003年4月1日現在)。

文庫名	タイトル	
小室・沢辺 記念文庫	海表異聞	漫 録
	千慮一得	新安手簡
	此君堂偶記	雲鳥詞翰
	翠軒先生雑録	西山遺聞採録
	[翠軒] 先生雑記	郵書日録
	雑書	寶曆十三年日記
	往生要集 外	丁艱日記
	京諸寺展曝 外	献替議艸
	安南器械	呂宋覚書
	上京日録	[立原翠軒日記]
巡見日記		
植木文庫	立志社始末記要	
	環海異聞	
	山本覚馬建白	
	信行寺大悲尊像縁起	



今後、二葉亭四迷・尾崎行雄・中江兆民などが徳富蘇峰に宛てた書簡や、外国人による日本研究資料としてケンペルのAmenitatum Exoticarum(廻国奇観)・The History of Japan(日本誌、英語版・オランダ語版)・Illustrations of Japan(日本風俗図誌)などを公開する予定です。

同志社大学に関連の深い資料、貴重資料等についての記事は総合情報センターHPもあわせて御覧ください。

所蔵資料紹介

<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/center/shokai.html>

特別コレクション

<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/special/index.html>

総合情報センター主催の講習会について

<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/koushu/index.html>



情報基礎講座 (情報基礎実習)

【対 象】 本学学生 【実施時期】 4月より開催中／秋学期も実施

入学してから初めてパソコンを利用したいと思っている方など、初心者を対象とした講習会を実施します。実際に教室で講習を行う「講義形式」とインターネットを用いて行う「WBT」を開設していますので、内容を確認のうえ申し込みを行ってください。

講義形式

- ユニット1：パソコンの基礎、インターネット、電子メール
- ユニット2：ワープロソフト
- ユニット3：表計算ソフト
- ユニット4：プレゼンテーションソフト
- ユニット5：ソフトの統合活用

WBT (Web Based Training)

- NetscapeやInternet Explorerなどのブラウザを用いて学習します。
- 繰り返し学習したい、自分のペースで学習したい、忙しくて講義形式の講習には参加できないなどの方にはお勧めです。
- 上記ユニット2～4について開設します。

申込方法・場所、開催日時については、両校地情報システム室で配布している2003年度情報基礎講座パンフレットを参照してください。

大学ホームページ「在学生の方に」からもご参照いただけます。

<http://www.doshisha.ac.jp/zaigaku/jugyo/kisokoza/index.html>

DOORS 講習会

【対 象】 本学学生 【実施時期】 5月～7月

【申 込】 両校地図書館カウンター

同志社大学蔵書検索システム「DOORS」を使うと本学および同志社女子大学の所蔵資料を簡単に検索することができます。探している資料が学内のどこにあるかが瞬時にわかります。また、オンライン版DOORSでは、貸出中など、資料の現在の状態もわかり、非常に便利です。講習会では基本的な操作方法について実習をまじえながら係員がわかりやすく説明します。

これから学生生活を始めるにあたってぜひとも知っておきたいもののひとつです。多数の参加をお待ちしています。

データベース講習会

【対 象】 本学学生 ※【実施時期】 5月下旬～7月上旬

【申 込】 両校地図書館カウンター

データベースを使えば国内外の新聞記事、学術記事や文献、学術雑誌、一般誌、判例、法令等あらゆる分野の情報を手軽にすばやく検索・入手できます。レポート、論文作成等に大きな味方となるでしょう。データベース提供会社の講師による利用講習会を企画しています。両校地で実施しますので、ふるってご参加ください。

※ 本学ネットワーク利用IDの交付を受けた方

今出川図書館 入庫説明会

【対 象】 本学学生 【実施時期】 4～7月／秋学期も実施 【申 込】 両校地図書館カウンター

今出川図書館には閉架書庫があり、約40万冊の図書と7,000タイトルの雑誌・新聞のバックナンバーを配架しています。閉架資料の利用は、通常メインカウンターに請求票で申し込み係員が出納しますが、入庫説明会を受講して入庫証を取得すると、利用者自身が書庫に入って資料の利用ができます。書庫内には、閲覧机(50席)、DOORS検索用パソ

コンや複写機を各階に設置しています。月曜日から日曜日の開館時から閉館1時間前まで、閉架図書請求の休止時間帯でも入庫できます。

春学期には20回開催します。授業の合間など、都合のよい時間帯を選んで講習会に参加し、ぜひ入庫証を獲得してください。

お知らせ

■ 情報メディア施設（京田辺）

京田辺校地におけるマルチメディア環境の中心となる情報メディア施設が、本年10月のオープンをめざし、現在建設が進んでいます。本施設は、大学のほか同志社諸学校も利用するローム記念館と大学の情報メディア館からなり、情報・マルチメディア機器を活用した実践的な教育の場となることが期待されています。

ローム記念館には、スタジオでのビデオ撮影や、最新のパソコン（Windows/Macintosh）を使って動画編集などが自由にできるマルチメディアラウンジ、オープンステージ（劇場空間）やプロジェクトルームなどが設置され、マルチメディア機器の操作技術の習得や、研究開発、高度な情報発信を行うための中心施設となります。（利用できる機器の詳細や利用方法については、決定次第お知らせします。）

情報メディア館は、大学の正課授業に利用する情報処理実習教室や演習室などが設置されるほか、今出川校地や他大学とを結んだ遠隔講義が可能な遠隔講義室も整備されます。

いずれの施設も、最新の機器を取り揃え、学生のみみなさんに大いに活用いただけるものとなります。ご期待ください。

■ 2003年10月より情報環境が変わります

2003年10月より利用できるパソコンやOS（WindowsNT→WindowsXP）、記憶装置（ZIP→MO）等が変更になります。特に京田辺校地では、パソコンを利用できる場所や開室時間等も変更になります。

また、メールなどのネットワークサービスについても、8月に更新を予定しており、8月中旬にはメールサービス等が一時的に停止する予定です。

詳細が決定次第、学術情報ネットワークに関する速報(Dnews) (<http://www.doshisha.ac.jp/network/dnews/index.html>) や掲示板等でお知らせしますので、必ず確認してください。

マナーを守って利用しましょう

■ 総合情報センターの利用について

- センターから利用者のみみなさんへの広報・連絡は掲示およびホームページで行います。
- 学生証・総合情報センター利用カードの不正使用、資料の又貸しや無断持ち出しは禁止します。
- センター内での飲食は厳禁です。また指定の場所以外では禁煙です。
- センター内では談笑や他の利用者の迷惑になるような行為は慎しみ、静かな環境を保ってください。
- 携帯電話・PHSの使用は禁止します。通話はもちろんのこと、着信音など周囲の利用者の迷惑になります。
- センター内の設備、機器、資料は大切に取り扱いってください。
- センターが所蔵する資料・情報は、利用者が著作権法の定める事項を遵守することを条件に利用に供するものです。（著作権について→<http://www.bunka.go.jp>）

■ パソコンの利用について

- ゲームや個人的趣味、商業活動等を目的とした利用は禁止します。
- 個人で持ち込んだソフトウェアのインストールやパソコンの設定変更は絶対にしないでください。
- 席をはずすときには、面倒でもシャットダウンしてください。
- ユーザID・パスワードは各自で責任を持って自己管理してください。

 同志社大学 総合情報センター報 No. 25 2003年5月6日発行

編集・発行：同志社大学総合情報センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL : 075-251-3960 E-mail : ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp
URL : <http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/index.html>